

オンライン国際交流による異文化交流と学習意欲向上の取り組み

An Approach for Online Intercultural Exchange and Enhancing Motivation for Learning Foreign Languages

今 悠恭¹ 小森 雄太² 松浦 康之

Yuki KON Yuta KOMORI Yasuyuki MATSUURA

¹プリンス・オブ・ソンクラー大学人文社会科学部 ²明治大学政治制度研究センター

Abstract

In light of the ongoing COVID-19 pandemic, study abroad and free international exchange activities with other countries continue to be suspended globally. With the proportion of infected students increasing exponentially this year in Thailand, Prince of Songkla University (PSU) has completely switched to online classes. In order to maintain and improve the cross-cultural understanding and motivation of students to learn foreign languages, both in Thailand and Japan, the authors conducted an online international exchange program in conjunction with Gifu City Women's College (GCWC). This study examines the challenges of this program and the enthusiasm of PSU and GCWC students to learn about cross-cultural understanding, foreign languages, and culture based on the specifics of the program and the results of a questionnaire survey.

Keywords: オンライン交流、国際交流、異文化交流、学習意欲、語学教育

1. はじめに

2021年も新型コロナウイルス（以下 COVID-19）が世界中で猛威をふるい、交換留学や海外研修など国際交流関係事業が延期または中止になった。プリンス・オブ・ソンクラー大学人文社会科学部東洋言語学科日本語専攻（以下 PSU）があるタイ王国も国内の COVID-19 感染者が急増したことから、授業は完全にオンライン授業での実施へと切り替わった。

このような状況下で、学生に海外の文化や外国語に触れる機会を模索した結果、2020年度と同様に岐阜市立女子短期大学国際文化学科（以下 GCWC）とのオンラインでの国際交流（以下オンライン交流）を実施するに至った。オンライン交流の実施に際し、前回と同様に PSU と GCWC 両校の教員のほかに外部有識者を加え、プロジェクトチームを組織するとともに、先行研究（今・松浦・小森 2021、鄭・大橋 2011、鄭・大橋 2012、塩谷 2019）をもとに今回のオンライン交流を実施した。

本オンライン交流は、同年代の学生同士がオンライン上で交流することで外国語学習の意欲向上や、自国や相手国に関する知識や異文化理解に対する態度の醸成を主たる目的とした。また、今回のオンライン交流実施の利点と課題を今後に生かすために、オンライン交流前後にアンケート調査を実施した。

本論文はオンライン交流の実施内容とその前後に行ったアンケート結果をもとに、日タイ両国の大学生の異文化理解や国際交流における学習意欲に関する考察を行い、今後の課題とオンライン交流の展望を提示する。

2. オンライン交流

2-1. 交流概要

PSU の 2021 年度の前期授業は 2021 年 6 月 21 日から始まった。また、タイ国内での COVID-19 蔓延に伴い、2021 年度は昨年度とは異なり、フルオンラインでの開始となった。GCWC の 2021 年度前期の授業は 2021 年 4 月 9 日から始まり、対面とオンラインのハイブリットで講義が行われた。

オンライン交流の実施期間は 2021 年 6 月 29 日～7 月 13 日で、各回 90 分で計 3 回行った。ツールは Microsoft Teams を使用し、PSU 学生は 7 名（男性 3 名、女性 4 名）、GCWC 学生は 8 名（女性 8 名）が参加し、昨年度よりも少数（昨年度 PSU 学生：12 名、GCWC 学生：21 名）でのオンライン交流となった。これは、昨年度のオンライン交流を踏まえ、多人数同士での交流では交流が十分ではなかったため、少人数に調整して実施したためである。事前アンケートでは、オンライン交流前の事前学習（自国や相手国に関する内容）や外国語学習に関するモチベーションの維持方法、今回のオンライン交流で期待しているテーマなどを質問した。事後アンケートでは、自国や相手国に関する知識の変化や外国語学習に関するモチベーションの変化、今回のオンライン交流で興味深かったテーマなどを質問した。

テーマについては、両校の学生に簡単なヒアリングをし、プロジェクトチームでオンライン会議を行った。その結果、テーマは、1 週目はアイスブレイク、2 週目は PSU 側の希望である

有名な料理や観光地、日本の昔の服装、3週目はGCWC側の希望であるタイのコスメ・エンターテインメントになった。今回の交流では両校の各学生がパワーポイントなどを使用し発表・質疑応答の形式で行った。

2-2. 各週の交流内容

1週目は、アイスブレイクとして、学生の自己紹介や各大学の紹介、相手国のイメージ(タイ人が思う日本や日本人、日本人が思うタイやタイ人)をテーマに発表し交流した。自己紹介では学生の趣味や好きな物、今現在夢中になっているものなどを紹介した。大学の紹介ではPSU側は5キャンパスや学部の紹介、大学のイメージカラーや花の紹介をした。GCWC側は大学の学科・コースや大学の所在地・近隣の紹介をした。お互いの国のイメージというテーマでは、PSU学生は日本を「街や道路がきれい(ゴミなどが落ちていない)、時間を守る」などのイメージがあるとし、GCWC学生はタイを「暑い、料理が美味しい」などのイメージがあると捉えていた。

2週目はGCWCの学生が、日本の有名な料理や観光地、昔の服装について紹介した。有名な料理ではコンビニスイーツのプリンやチーズケーキ、観光地は大学所在地の岐阜県に関するものや近隣県の観光名所を紹介した。タイでも近年プリンやチーズケーキがコンビニやカフェなどで提供されるようになり、日本に滞在経験がある学生から、タイと日本のプリンやチーズケーキの味の違いなどが話された。昔の服装では十二単や振袖、浴衣や袴などの伝統的な衣装が紹介され、着用場面の違いなどの説明が行われた。

3週目はPSUの学生が、タイのコスメやタイドラマ、タイでイケメンとされる人物紹介がなされた。最近、日本ではタイブランドのコスメが流行しており、GCWC学生から「実際に使っている」「自分が使っているのがタイコスメと知らなかった」などの声が聞かれた。タイコスメの紹介では女性用だけでなく、男性用コスメも紹介し種類の豊富さに学生たちも驚いていた。タイドラマも近年、日本で放映されるようになり、知っているGCWC学生もいた。また、紹介されたタイドラマの3タイトルのうち、1つは男性同士の同性愛をテーマにしたドラマであった。タイで非常に人気なドラマとの紹介に、驚く学生も多かった。イケメンというテーマでは韓国の歌手グループに在籍しているタイ人や、現在ドラマで活躍しているタイ人俳優などが紹介され、GCWC学生からは「日本人がイケメンとする顔と、タイ人がイケメンとする顔は少し違う」という声があった。

3. タイ人学生に対するアンケート結果

3-1. 参加学生の概要

参加者7名(男子3名、女子4名)のうち、日本での滞在・留学経験のあるものは5名(1週間未満:2名、1か月未満:2

名、1年未満:1名)だった。設問「日本語を勉強する理由(複数回答可)」では昨年同様に参加者7名全員が「アニメ・マンガ・音楽・ファッション等への興味」を選択、以降多い順に「日本語そのものへの興味」6名、「日本への観光・旅行」5名、「歴史・文学・芸術等への関心」「日本への留学」「将来の仕事・就職」「日本語での情報収集・コミュニケーション」がそれぞれ3名と続いた。昨年度は2番目に「将来の仕事・就職」(12名中9名)があったが、この結果から今年度の学生は日本語を使って自分の趣味や興味を充実させる傾向があると考えられる。

3-2. 事前アンケート結果

設問「オンライン交流で期待しているテーマ」では「有名な料理・観光地、昔の服装」「コスメ、エンターテインメント」4名、「自己紹介・大学紹介、相手国のイメージ」(アイスブレイク)が2名だった。設問「オンライン交流で日本人と交流できることを期待しているか」には「とても期待している」が6名、「期待している」が1名と回答した。

「オンライン交流で日本の文化や社会に関する知識不足は不安か」という設問では7名全員が不安であると回答した(「とても不安である(2名)、やや不安である(5名)」。さらに、「オンライン交流前に日本語を学習するか」という設問にも5名が「必ずする」、2名が「できればする」と答えた。また、「オンライン交流前に日本の文化や社会に関する学習をするか」には「必ずする(4名)」「できればする(3名)」との回答であった。このことから、参加者全員が自分の日本語能力や日本に関する知識に自信を持っていないような回答となった。そのため、「オンライン交流で日本語が向上することを期待しているか」には「とても期待している(2名)」「期待している(4名)」、「オンライン交流で日本の文化や社会を学べることを期待しているか」には「とても期待している(5名)」「期待している(2名)」と回答しており、オンライン交流への期待度が高かった。

「オンライン交流でタイの文化や社会を伝えられることを期待しているか」という設問では6名が期待している(「とても期待している(3名)」「期待している(3名)」)と答えた。「オンライン交流でタイの文化や社会に関する知識不足は不安か」には6名が不安であると回答した(「とても不安である(1名)」「不安である(5名)」。前述した日本語や日本の文化・社会に関するアンケートと同じで、自国に関する知識不足について不安を持っていた。そのため、「オンライン交流前にタイの文化や社会に関する学習をするか」には6名が学習する(「必ずする(5名)」「できればする(1名)」)と回答していた。

日本語学習のモチベーション維持に関する設問では、7名全員が日本語の学習意欲維持のために「日本のアニメ・マンガなど見たり読んだりしている」と回答した。「日本のドラマや映画などを見ている」は5名、「日本の芸能人のSNS(Instagram

オンライン交流による異文化交流と学習意欲向上の取り組み

や Twitter など) をフォローしている」が 6 名、「YouTube など動画サイトで日本語の動画を見ている」が 6 名、だった。対照的に「日本人 (先生、友人) と電話・チャットしている」では 6 名がしていないとし、「友人 (タイ人) と日本語で話すようにしている」では「たまにしている」が 5 名、「あまりしてない」「していない」がそれぞれ 1 名だった。この結果は昨年度と同様で、オンライン交流参加学生はアニメやマンガ、ドラマやインターネットの動画などで日本語に接するが、会話等の日本語で何かを発信するという点では日本語との接点が少なかった。

3-3. 事後アンケート結果

6 名が「日本人と交流できたことに満足している」と回答し、7 名全員が「日本の文化や社会を学べたことに満足している」「タイの文化や社会を伝えられたことに満足している」とした。また、5 名が「オンライン交流で日本語能力が向上したことに満足している」と回答した。事前学習に関する設問では 7 名全員がオンライン交流前に「日本語の学習をした」とし、6 名が「日本/タイの文化や社会に関する学習をした」と回答し、オンライン交流に対する前向きな態度が窺える。また、5 名が「オンライン交流で日本の文化や社会に関する知識が増えた」と、4 名が「タイの文化や社会に関する知識が増えた」と回答した。

「オンライン交流後に日本語学習の学習意欲に変化があったか」という設問には 6 名が「学習意欲が増えた」とし、1 名が「学習意欲が減った」と回答した。回答理由として「べらべらになりたい」「日本語や日本文化をもっと勉強しなければならない」等学業・スキル面とオンライン交流内容に関する回答が見られた。回答理由は【表 1】の通りである。

設問「今回のオンライン交流で興味深かったテーマは何か (複数回答可)」では多い順に第 2 週の「有名な料理・観光地、昔の服装」が 6 名、第 3 週の「コスメ/エンターテインメント」が 3 名、第 1 週の「自己紹介・大学紹介、相手国のイメージ」が 2 名だった。上記の回答理由として「観光地や料理が好きだから」「エンターテインメントが好き」「行きたい観光地がたくさんある」など自分の興味や関心があったためと回答した学生が多かった。参加学生の自由回答は下記【表 2】の通りである。

最後に今回のオンライン交流に関し自由回答してもらったところ、【表 3】のような回答が見られた。回答から概ね満足し、

次回を望む声もあった。

4. 日本人学生に対するアンケート結果

4-1. 参加学生の概要

設問「今までに外国人と話したことがあるか」には 8 名全員が「外国人と話したことがある」と回答した。一方で、設問「海外に滞在・留学したことがあるか」では海外渡航経験があるのは 2 名のみだった。設問「外国語を勉強する理由 (複数選択可)」では多かった順に「外国語そのものへの興味」「国際理解・異文化交流」が 5 名、「アニメ・マンガ・音楽・ファッション等への興味」「将来の進学・仕事・就職」「外国への観光・旅行」が 4 名と続いた。

4-2. 事前アンケート結果

設問「今回のオンライン交流で期待しているテーマ」では多い順に第 3 週「コスメ、エンターテインメント」7 名、第 2 週「有名な料理・観光地、昔の服装」6 名、第 1 週「自己紹介・大学紹介、相手国のイメージ」4 名という結果だった。近年、日本でもタイの化粧品やタイのドラマが人気になっていることも背景にあると考えられる。

設問「オンライン交流で外国人との交流を期待している」「オンライン交流で外国の文化や社会を学べることを期待している」では 8 名全員が「期待している」と答え、オンライン交流への期待が高いことがわかる。「オンライン交流参加前に外国語学習をしようと思う」「オンライン交流で外国語能力が向上することを期待している」ではそれぞれ 6 名が「期待している」と回答した。

設問「オンライン交流で日本の文化や社会を伝えられることを期待している」には 7 名が「期待している」と回答した。また、「オンライン交流で日本の文化や社会に関する知識不足が不安」に 8 名全員が「不安である」と回答したが、「オンライン交流前に日本の文化や社会に関する学習をする」と回答したのは 6 名だった。設問「オンライン交流で外国の文化や社会に関する知識不足が不安」に 7 名が不安と回答し、その結果、設問「オンライン交流前に外国の文化や社会に関する学習をするか」にも 7 名が「する」と回答し、オンライン交流前に少しでも学習し、不安を取り除こうとしていると考えられる。

【表 1】 PSU 学生の日本語の学習意欲が変化した理由の自由記述回答 (著者ら作成)

日本語が難しいからです。
もっとべらべらになりたい。
今回の交流オンラインはだいたい普通なテーマを紹介しても、とても楽しかったです。
日本語のことが増えます。
自分が日本語のことも日本の文化をもっと勉強しなければならないの事を理解させてくれるからです。
日本人学生に会ったからです。
もし自分の興味の事を話せば、これでいいと思います。

【表2】 PSU 学生の今回のオンライン交流で興味深かったテーマに関する自由記述回答（著者ら作成）

観光地とか料理などが好きですから、第2回の交流会は特に好きです。日本に関する観光地や料理などの知識が増えました。嬉しくて、楽しかったです。
1.相手の大学についてわかります。2.行きたい観光地はたくさんあります。3.日本人にタイのことを紹介するのは面白いと思います。
第2回めの紹介が一番でわかりやすいですから。
私、エンターテインメントが好きで、いっぱい知りたいことがあります。
日本語を勉強するためには文法や文化などを勉強するのが当然なことですが、その他 例えば、日本の大学の体系額や人気しているものや若者に興味があることなど。このことはだいたい実状で合わなければよくわからないだと思います。だから、日本人に直接で聞かれたのはとても勉強になります。
そのことについて興味があるからです。
アニメとか音楽の事を話したい。

【表3】 PSU 学生の今回のオンライン交流に関する感想などの自由記述回答（筆者ら作成）

-
「プレゼンテーションとてもわかりやすかった」のコメントをもらって、とても幸せなのです。また、交換したいです。
もし、それぞれの交流会は、1時間半ぐらいにするなら、もっと面白そうかも知れません。
この交流がとても楽しいです。今回があるなら、嬉しいです。
今回のオンライン交流に参加いただき、誠にありがとうございます。
ありません。
とても楽しかったです。

外国語の学習意欲維持に関する項目では、多い順に「外国のドラマや映画などを見ている」「芸能人（外国人）の SNS（Instagram や Twitter など）をフォローしている」が 6 名、「YouTube など動画サイトで外国語の動画を見ている」が 5 名だった。PSU 学生とは対照的に「外国のアニメ・マンガなどを見たり読んだりしている」は 2 名だけだった。これは日本で外国のアニメやマンガが流行しておらず、学習ツールや学習意欲維持のツールの選択肢に入っていないと考えられる。また、「外国人（友人、先生など）と電話・チャットしている」「友人（日本人）と外国語で話すようにしている」では 6 名が「していない」と回答した。

4-3. 事後アンケート結果

事後アンケートでは参加学生 8 名全員が「オンライン交流で外国の文化や社会を学べた事に満足している」「オンライン交流で日本の文化や社会を伝えられた事に満足している」と回答し、7 名が「オンライン交流で外国人と交流できた事に満足している」とした。また、「オンライン交流前に日本/外国の文化や社会に関する学習したか」ではそれぞれ 5 名が「学習した」と回答したが、「オンライン交流前に外国語の学習をしたか」では 8 名全員が「しなかった」と回答した。しかしながら、6 名が「今回のオンライン交流で日本/外国の文化や社会に関する知識が増えた」とした。これに関しては、PSU 学生が外国語である

日本語で交流する半面、GCWC 学生は母語である日本語で交流したため、このような結果になったと考えられる。

「オンライン交流で外国語の学習意欲維持に変化があったか」という設問では 8 名全員が「学習意欲が増えた」と回答した。その理由として【表4】から、PSU 学生の日本語能力の高さと交流を通じて、感化されたためと考えられる。この結果は前回と同様であり、日本人学生は外国人学生の日本語能力の高さに影響を受け、奮起する傾向があることを示唆される。

「今回のオンライン交流で興味深かったテーマは何か」という設問では多い順に、第3週の「コスメ/エンターテインメント」6 名、第1週「自己紹介・大学紹介、相手国のイメージ」第2週「有名な料理・観光地、昔の服装」は各 1 名だった。この結果について、【表5】の自由回答から、コスメやドラマなど身近なものに関して、新しい情報が紹介されたことやネットからは知ることができないこと、タイの実際の生活を知ることができたため、このような結果になったと推察できる。

今回のオンライン交流に関する感想などを自由回答した結果を【表6】に示す。【表6】から、PSU 学生同様、GCWC 学生もオンライン交流を楽しんでいたことがわかる。その一方で、積極性について自ら積極的に質問や会話をすれば良かったとするなどの今後の課題を示唆するような記述もあった。

オンライン交流による異文化交流と学習意欲向上の取り組み

5. 今後の課題

5-1. オンライン交流に関する課題

今回のオンライン交流に関する課題として、テーマの設定や開催時期の決定が容易ではなかったことが挙げられる。

タイの高等教育機関において、ASEAN 域内の留学等の学生交流増加を期待し、各大学の新学期開始時期を8月にした。しかし、タイの1年で最も暑い4月に授業を実施することで授業実施の負担増があったことや当初の想定ほど ASEAN 域内の学生交流の活性化につながらなかったことから、元来の学年暦の新学期開始時期を5月に戻す大学も増えつつある。PSUも現在、元来の学年暦である5月開始に戻す過程であり、新学期開始時期が毎年異なっている。これに加え、PSU 人文社会科学部では学期開始の1-2週目は副専攻がある学生のために教員と学生が話し合い、大学が決めた時間割ではなく自分たちで新たに時間割

を決める必要がある。そのため、GCWC とのスケジュール調整に時間を要した。しかし、学期開始時期が5月に戻ることで、この課題は解決すると考えられる。

また、オンライン交流のテーマや内容に関しても、上述のスケジュールの影響で、細部の打ち合わせができなかったことも課題の1つである。GCWC 学生の事前アンケートと事後アンケートを比較すると、事前アンケートで「今回のオンライン交流で期待しているテーマは何か」に「自己紹介・大学紹介／相手国のイメージ」4名、「有名な料理・観光地／昔の服装」6名と回答があったが、事後アンケートの「オンライン交流で興味深かったテーマは何か」ではそれぞれ1名のみの回答で大幅な減少が見られた。テーマについては、交流前に両校や各大学で入念な話し合いが必要である。また、テーマ決定後に一定程度の準備期間を設けることで、期待と交流内容のミスマッチを防ぐことができると考えられる。

【表4】 GCWC 学生の外国語の学習意欲が変化した理由の自由記述回答（著者ら作成）

タイ人が頑張って日本語を喋っていたから
タイ人と交流できたことによって、他の国々の人とも関わってみたい気持ちが高まり、そのために外国語の勉強をしなければならなかったから。
タイの生徒の方々が流暢な日本語で話していたり、自然な日本語の文章が作れていたりしたため、私も日本語以外の言語を流暢に喋ることができるようになりたいと思ったから。
こちらも相手の方々の母国語で発表できるようになりたいと思ったから。
現地に住んでいる学生とかかわるのが楽しかったため、他言語を学んでもっと交流したいと思ったため。
日本語がとても上手ですごいと思ったから。
おもしろかった。
自分の知らないことが多くあると知ったから。

【表5】 GCWC 学生の今回のオンライン交流で興味深かったテーマに関する自由記述回答（著者ら作成）

知ってるのができたから。
料理や観光地は人々にとって魅力的に映るものだと思うから。
タイのコスメが有名だと知らなかったり、気になっていたドラマがタイのドラマだと知らなかったりして、新しく知ることが出来たため。
日本ではBLが好きというところちょっと引かれそうだが、タイではむしろ人気がありその話題をみんなで共有できることにとても驚いたし文化の違いを感じたから。
ネットではわからないことを知れたため。
紹介してくれたタイドラマがおもしろそうだったから。
楽しかった。
相手の身近な生活を知ることが出来たから。

【表6】 GCWC 学生の今回のオンライン交流に関する感想などの自由記述回答（筆者ら作成）

タイに行きたい。
タイ人と交流できる貴重な機会だったから、もう少しお話できれば良かった。
タイのことをほとんど知らなかったが、沢山のことを知ることが出来たし、外国人と交流することが楽しかった。
タイの方が予想以上に日本語が上手ですごく感心した。私も外国語の勉強を頑張ろうと思う。
もっと意見をだしたり、質問すればよかったなと思いました。
特にはないです。
特にはないです。
日本の若者とタイの若者の好きなものにあまり変わりがないと分かった。

5-2. タイ人学生に関する課題

前回のオンライン交流方法とは異なり、今年度は学生個々人のデバイスからの参加となったため、インターネット環境やデバイスの問題があった。第1週の自己紹介で、ある学生が準備したプレゼンテーション資料が再生されず、口頭のみでの自己紹介になった。この学生は、他の発表の準備もできず、日本語の使用は自己紹介と質疑応答のみにとどまってしまった。そのため、参加者の使用ツールの習熟も課題の一つであると考えられる。

他に、タイでは家庭に学生の個人の部屋がない場合も多く、生活音や外の雑音も入ることもあった。そして、個人のパソコンがない学生もあり、スマートフォンでオンライン交流に参加し発表の準備をした学生もいた。また、GCWC 学生の発表後に積極的に質問する学生は少なく、沈黙が続く場面が多々あった。

このようにタイ人学生に関しては、ハード面で学生間の差が大きく、オンライン交流するにあたってはパソコン・タブレットの貸与やインターネット回線の拡充ができるかどうかなどを検討・考慮する必要がある。

5-3. 日本人学生に関する課題

今年度は1年生のみ8名の参加となり、昨年度の交流時より半分以下となった。PSU と異なり、昨年度同様に学生と教員は1つの教室に集まり、1台のPCからオンライン交流となった。今回の参加学生の中にはタイに滞在経験のある学生もあり、質疑応答や議論が活発になると予想したが、PSU 学生同様に積極的な発言をする参加学生はほとんどいなかった。PSU 学生同様に消極的であり、積極的な交流を促すためには PSU 学生2名・GCWC 学生2名のような少人数のグループでの交流にする必要がある。

6. おわりに

今年度のオンライン交流は昨年度に比べ約半数の15名（PSU 学生7名、GCWC 学生8名）の参加者での実施となった（昨年度 PSU 学生：12名、GCWC 学生：21名）。このことから、昨年度よりも積極的に発言をすると予想していたが、予想と異なり、活発な交流にはならず質疑応答も少なかった。PSU 側では、前回は1つの教室で参加者全員が集まったのオンライン交流だったため、画面に映らないよう見えない範囲から教員が学生に発言や質問等を促した。しかし今回はフルオンラインで集まることができず、前回のよう学生に発言を促すことができなかった。これは、人前で日本語を使うことに慣れていないための羞恥心や他者への配慮、「誰かが質問するだろう」といった消極的態度も関わっていると考えられる。GCWC 側では、前

回は人数が多く、「誰かが発言してくれる」、「目立ちたくない」と言った消極的態度や羞恥心が関わっていた。そのため、今回は少人数で行ったが、今回も同様の消極的態度や羞恥心が生じており、前回と変化はなかった。

これらの課題を改善するために、オンライン交流環境の整備・拡充や使用ツールの習熟、日本語あるいは外国語の使用場面の拡大・充足などが考えられる。また、学生同士の質疑応答や発話を積極的にさせるためには、より少人数でグループ化しての交流が望ましいと考えられる。

しかしながら、事後アンケートの結果の通り、参加者全員が語学への学習意欲が増加すると回答し、オンライン交流を前向きに捉えている。そのため、オンライン交流方法やテーマを工夫することが重要である。

参考文献

鄭愛軍・大橋眞（2011）「実例による異文化コミュニケーションの問題分析—青島理工大学と徳島大学とのインターネット交流を中心に—」『大学教育ジャーナル』第8号 69-75 頁。

鄭愛軍・大橋眞（2012）「青島理工大学と徳島大学との遠距離ビデオ会議（SKYPE™）交流の実例分析—2011年4月から7月までの交流内容を中心に—」『大学教育ジャーナル』第9号 74-80 頁。

塩谷もも（2019）「国際交流科目を通じた異文化理解とは—「アジア文化交流」から考える—」『人間と文化』第2巻 178-189 頁。

今悠恭・小森雄太・松浦康之（2021）「オンライン交流による外国語および外国文化の学習意欲向上に関する基礎的研究—岐阜市立女子短期大学とプリンス・オブ・ソクラ大学による取り組みを事例にして—」『岐阜市立女子短期大学研究紀要』第70輯 1-7 頁。

（提出日 令和3年9月30日）